

GreenField



第95号

令和2年2月発行
葉科中学校PTA広報



僕は団長として紅組を引っ張っていったと思います。それは1人の力ではありません。団長や紅組の皆さんが協力し、高めあっていたからこそです。応援優勝できたのも、練習から本気で声をだし、一つ一つの動きを完璧にしようと団員全員が心がけた結果です。体育祭を通して練習から本気でとりくめば結果につながると学びました。

紅組 応援団長 中川理央



優勝できたのは大輝君、真希さんを始めとした、応援団員、最後の体育祭を共にした3年生の皆、ここまでついてきてくれた1、2年生のおかげだと僕は思います。団長になってまもないころ、上手くまとめられなかったけれど次第にみんな仲が深まって1つになっていくのを実感できました。当日、とても楽しい体育祭を行えて、仲間と協力することの大切さを学ぶことが出来ました。

白組 応援団長 洪川世廉

8/3 朝市



8/4 資源回収・奉仕作業



9/7 青少年健全育成大会

講師 静岡大学教育学部准教授 塩田真吾 先生



9/14 体育祭



「わたしの主張2019 静岡県優良賞」

特産物を守るには 3年 中川理央

5月。お茶の新芽が青々としてくる。濃い緑色の中に鮮やかな若草色が村中を包む季節。水量に恵まれた水見色は、古くからお茶の生産が盛んだった。お茶の生産が始まったのは800年前。江戸時代には、10代將軍家治公の献上茶に指定され、お茶はさらに発展し、静岡の特産物「本山茶」が盛んな地域のひとつとして名を連ねた。水見色のお茶にはこうした歴史がある。

しかし、近年水見色のお茶の生産は、大きな問題に直面している。農家の後継ぎ問題である。

水見色の人口は500人程度だ。そのうち小学生が9人。中学生は7人。まさに少子高齢化が進んでいる。それにともないお茶農家の数も年々減り続けている。かつては親の後を継ぎ、お茶農家を続ける家が多かったが、現在は違うのがその原因の一つだ。農家は60歳以上の高齢者であり、後継ぎはいない。

茶畑は山を切り開いて作られた。高齢者が足場の悪い山や高所で作業するため、足を踏み外しあやまって転落する人も少なくはない。今年、私のおじはお茶の露を払っているときに転落し、救急車で運ばれた。大事には至らなかったが、危ないことに変わりはない。

一番茶の頃は、ちょうどゴールデンウィークと重なる。私も小さい頃から父、母とともに祖父、祖母を手伝いお茶を刈っている。朝9時頃、軽トラに乗り、茶畑に向かう。祖父と祖母2人で茶刈り機の端と端を持って、新芽だけをきれいに刈っていく。父と母がそれを手伝う。お茶で膨らんだ袋は30キロほどになる。私はそれを軽トラバックまで運ぶ。道も悪いし、斜めだ。とても重労働である。普段は70歳の祖母だけで、茶を刈り、茶袋を運ぶ。考えるだけで大変である。

農家の後継ぎが増えない原因は他にもある。それはお茶の値下がりである。昭和の時代には、1キロ1万円以上していたお茶も年々値下がりし、今は1キロ4千円である。100グラムは400円、半分以上の値である。今年のお茶の値段の電話を受けて、「こんなに努力したって自然には勝てない。こんなのでは百姓が続けるのは大変だな」と、あきらめ顔で祖父が言った。「そうだね」としか、私は言えなかった。祖父の努力を見てきているからだ。

値下がりの理由の一つはお茶離れだ。最近では、ペットボトルでお茶を飲む人が大半らしい。お茶を飲むのに変わりはないが、1年、手入れをして丁寧に刈った水見色のお茶でも1本150円のペットボトルには、できない。また、日本で売れないお茶は、海外へ輸出する。しかし、外国の農業の基準は厳しく、使用可能な農薬が決まっている。日本で使用されている物と比べ、効果が弱い。「日当たりの悪い水見色ではお茶が病気になる」と祖父から聞いた。これでは、お茶農家としては、やっていけない。後継ぎがないのもしかたないと思う。

私は水見色を出ても、お茶の手伝いを続ける。仕事をしながらもお茶を刈る。今の自分にはそれくらいしか考えられない。なぜなら、自分には調理師になるという夢があるからだ。「お茶を守りたい。」と語りながら、水見色を出て行くのは身勝手かもしれない。しかし、この夢は捨てきれない。それでも伝統あるお茶農家を継ぎたい。大人になっても、5月には、一番茶が香り、茶刈り機の音が山に響いていて欲しい。どちらの願いも、本物は、私の友達の何人かと同じように葛藤している。日本中には私たちと同じ気持ちの若い人が、数多くいるに違いない。日本には、日本の農家を守る取り組みをしているが、それが本当に農家を守ることに繋がっているのだろうか。

深い味わいと香りの、急須で入れた水見色のお茶を、私は毎日飲む。この味を小さな自分の力、そして、社会の力で守れる日が来ると私は信じている。



10/26 わらしな 学習発表会



薬科中の合唱は少人数ですが、まとまりと迫力があります。それは、練習で活発に意見を伝え合う先輩と、取り入れようとする後輩の素直さがあることでできています。合唱特別委員会は合唱をより高める工夫を考え、実行しています。合唱練習では、細かい課題を見つけ、より良い合唱にするため部分的な練習をたくさん行いました。本番が近づくと、学年で団結して頑張る姿が見られて、互いに良い影響を与えました。

学習発表会実行委員長 本多瑤歌

10/27 PTA祭



11/8 グランドゴルフ



12/19 縦割り班対抗駅伝大会